

永井潜 （永井潜の肖像） 生理學者、醫學博士。明治九年十一月十四日廣島縣生れ、昭和二十二年五月十七日没（八七—九五）。號靜山。明治二十五年東京帝國大學醫科大學卒業。歐洲留學後、大正四年在東京帝大教授、のち臺北帝國大學醫學部部長。戰後、千葉大學教授。生理學を専攻し、優生學、遺傳學に通じ、性教育、人口問題等廣範に發言、著書多數。

『生命論』（増補再版・大正二年八月一日洛陽堂）、『人性論』（大正五年七月五日實業之日本社）、『保健衛生』（白（一）食論）（岡崎桂一郎共著、大正八年一月二十三日文會堂書店）、『反逆の息子』（大正十四年一月一日文化生活研究会）、『アリストテレスよりニヒートンまで』（昭和四年六月十五日春秋社）、『生命と自然界』（内務省衛生局編、昭和四年九月一日大日本私立衛生會）、『自然觀より人生觀へ』（昭和八年五月二十日京都・人文書院）、『科學の今昔』（昭和九年一月十日春秋社「春秋文庫」）、『結婚讀本』（昭和十四年十一月十日春秋社）、『新生命論』（昭和十五年九月十五日春秋社）、『東の風西の波』（昭和十九年五月五日支問題研究会）、『自然科學史一回顧』・景仰・翹望』（昭和二十二年八月十五日春秋社「春秋選書」）等。

